



月1回のポレポレカフェで談笑中

活動はスローにゆるく、がんばりすぎず

～ 琴浦ポレポレな暮らし ～

移住者をあたたかく支える仕組みづくり

「地域が元気になってほしい!」。こんな思いで、移住者と地域住民が交流する場をつくり、空き家の活用サポートに取り組む「琴浦ポレポレな暮らし」。ポレポレは、スワヒリ語で「ゆっくり」という意味。「ゆっくり、楽しく生きよう」、団体名には、そんな思いが込められています。

「琴浦ポレポレな暮らし」の前身は、「コトウラ暮らし応援団」。これは、地元の建設会社で代表取締役社長を務める馬野慎一郎うまの しんいちろうさんが発起人となって平成26年に立ち上げた団体です。馬野さんは、25年前に琴浦町にUターン。そのころと比べても明らかに人口が減っていると感じ、「人口減少を食い止めることは難しい。でも、なにかできることはないかというのが、そもそもの発想」と設立のいきさつを語ります。「商売をしているので、にぎやかなほうがいいです。琴浦町は本当にいいところなので、外からも人が来てほしいという素朴な気持ちがありましたね」と続けます。そ

して、移住定住の推進を民間でもできないかと考え、琴浦町役場に相談しました。ちょうど、移住定住アドバイザーという制度ができたタイミングで、住民と行政が連携した移住支援がスタートしました。

平成28年3月、「琴浦ポレポレな暮らし（以下「ポレポレ」という）」と名称を変更。移住者と地域の人をつなぎ、移住者をあたたかく支える仕組みづくりで琴浦を盛り上げています。

空き家の活用サポート

活動の一つは、空き家の活用サポート。馬野さんをはじめ町内の不動産関係者のメンバー数名で、琴浦町の空き家情報登録制度「空き家ナビ」への情報掲載や移住者への物件紹介のサポートを行っています。不動産取引には資格や知識が必要で、行政と民間が連携することによって、空き家を探す移住者へのきめ細かなサポートが実現しています。また、空き家の現地調査などの準備経費は無償で行っているため、利益優

先ではなく地域のためという想いで活動しています。

ポレポレカフェでゆるくつながる

活動のもう一つの柱である「ポレポレカフェ」。これは、移住者と住民がつながるきっかけの場として始めたもので、月に1回開催します。ポレポレカフェは、移住者と住民が出会い、ゆるくつながる場。そして、移住者同士が仲間意識を共有できる場です。「実は、移住者でなくても、来てOK！町外の方も、ウエルカム」と馬野さん。

「移住者から見た琴浦町」など、話すテーマを決めて参加者同士で話しあう日もあれば、テーマを設けず雑談をかわす日もあります。一向平キャンプ場に新しくできたフィンランド式サウナなど、今、町内で話題のスポットに行く、参加者が行ってみたいところに行くなど、場所も気ままです。参加者の顔ぶれも変わるので、新しい出会いやつながりがうまれます。

人と人との距離が、ちょうどいい

ポレポレカフェには、若手の面白い人も集まってきます。3年前、広島県から琴浦町に移住した出崎隆晟さんもその一人。大学生のときに、友だちと初めて琴浦を旅した出崎さん。そのとき一緒に旅をした友だちが、「めっちゃ、楽しかった」といろんな人に伝え、出崎さんが代わるがわる友だちを連れてくるうちに、4回も琴浦を訪れていました。

旅をする中で、現在勤める会社の社長に「鳴り石の浜プロジェクト」のあつまりに誘われ、初めて町民の方と交流しました。「初対面なのにこんなによくしていただけたところは他にないっていうぐらいよ

くしていただいて。僕、感動しちゃった」と、出崎さん。「野菜とか、お土産とか、いろいろ受け渡しがあり、会ったら、ちょっと立ち話するとか、人と人との距離感が心地よかった。ちょうど就職のタイミングでもあって」と、移住の決め手を話します。

「琴浦は、人があったかい」。そう話すのは琴浦町企画政策課で移住定住を担当する辻中友樹さんと長谷川留美さん。「最終的に琴浦に決めるのは、人とのつながりがあるから」と、馬野さんもうなずきます。

多様な人を受け入れたい

「琴浦に来たときに、顔見知りもない中、ポレポレに顔つなぎをしていただいたおかげで、琴浦に居やすくなった。今度は自分の番。来られた方の一番の窓口になれたらうれしい」と、これからの自分の役目を話す出崎さん。

出崎さんは、最近、友人とネットラジオもはじめました。その名も、“ラジタビーズ 冗談抜きで冗談”。琴浦の日常を語るラジオです。「もう趣味の領域で。個人の感想みたいな感じ。それでもありがたいことに、ファンになってくださる方もいて。再生回数は少ないですけどね」と笑います。

「ポレポレは、多様な人を受け入れる先駆的な団体でありたい」と熱く語る馬野さん。さらに、「出崎さんのような若い人が、自分の好きなことをどんどん実現できるまちでありたい」とも。「若い移住者が、地元のルールに従うことは、もちろん大事だけれど、地元の人がいろいろな価値観を認めて、柔軟に変わっていくことも大事」と、琴浦の今をみつめます。



プロジェクトリーダー
馬野さん

鳴り石の浜 プロジェクト

実は、「コトウラ暮らし応援団」の以前から、「鳴り石の浜プロジェクト」のリーダーとして、地域活性化に取り組んできました。その活動は今も継続中！

ネットラジオ
好評配信中!

ラジタビーズの 冗談抜きで冗談



ラジタビーズ
冗談抜きで冗談
DJ KANKEIZINKO, DJ カレーかけちゃん, DJ コップンカー

出崎さん
(DJ コップンカー)



いつでも
聞いてね!

いいことがあったとき
ちょっと落ち込んだとき
それ以外のとき...



惑星 コトウラ

琴浦町は鳥取県のほぼ中央に位置し、北に日本海、南に大山と豊かな自然に恵まれたまちです。

近年、「小さいくせにぜんぶある」をキャッチフレーズに「惑星コトウラ」としてまちをブランディング。

もともと地域づくり活動が盛んで、地域活動団体も多く存在しています。「鳴り石の浜」の情報発信と保全活動に取り組む「鳴り石の浜プロジェクト」もその一つ。さらには、団体同士の連携を図る「琴浦まちづくりネットワーク」という組織もあり、住民主体のまちづくりが盛んです。



一向平キャンプ場でみんなでココロを整えました。



移住者170人、過去最多を記録

琴浦町への移住者は、令和4年度に170人と過去最多を記録。宝島社が発行する「全国住みたい田舎ベストランキング」（人口1万人以上2万人未満）では、総合1位を獲得。ポレポレなど、官民一体となった取組が評価されたことも大きい。現在は、地域おこし協力隊としてサウナ熱波師の五塔熱子^{ごとうねつこ}さんらが活動中。琴浦に熱い視線がむけられています。



はせがわるみ
長谷川留美さん
琴浦町役場企画政策課
移住定住アドバイザー

移住された方が役場に來られたときに、「こんにちは」と、気軽にあいさつしてくださるのがとてもうれしいです。移住前はもちろんのこと、移住された後も、何かあれば気がねなくご相談ください。



つじなかともし
辻中友樹さん
琴浦町役場
企画政策課

もとは、リターンが多かったのが、最近は、リターンが増えています。半々ぐらいの田舎に住んでも仕事ができる環境が整ってきているので、田舎でゆっくり暮らしたい人に琴浦町を選んでもらっています。以前は50代・60代が多かったのが、ここ2・3年で20代～40代が全体の80%となっています。ポレポレにしっかりとサポートしてもらえることが大きいですね。

問
合
せ
先

琴浦ポレポレな暮らし

〒689-2501

東伯郡琴浦町赤碓1840-1（馬野建設株式会社内）

電話 0858-49-2222

メール shin@umano.co.jp



facebook